

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2773801341 | | |
| 法人名 | 医療法人祐青会 | | |
| 事業所名 | グループホームくすのき苑1階(杉) | | |
| 所在地 | 大阪府羽曳野市古市5丁目5番13号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年5月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2773801341-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成29年3月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュールや週間予定を決めず、それぞれが自由に過ごしながら、想いや希望に沿った生活ができるよう努めている。 ・地域の一員として生活できるよう、日々の関わりを大切にしている。地域の行事に参加したり、ボランティアの受け入れや市民との交流を積極的に行っている。 ・働きやすい職場であるよう、スタッフ同士が自由に発言できる環境作りに努めている。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>当該ホームは利用者や家族と信頼関係を築き寄り添うケアを大切に考え、ミーティングで話し合いその人らしい暮らしとなるよう介護計画を作成し職員間は連携良く日々の支援に努めています。身体的に重度の利用者が多くなっても楽しめる行事やレクリエーションを職員が意見を出し合い実施する他、小学生が昔遊びを行いに来てくれたり保育園児のお遊戯の披露と肩たたきの交流は定例化しており利用者の楽しみ事となっています。また、地域との関係も良好で、職員は月に一度地域の清掃を行い、校区の祭りの手伝いに行き地域の一員としての活動をしています。更に運営推進会議は家族や地域の方、有識者等の多くの参加者を得て開催され、感染症対策についての質問を受け答えたり、災害時の相互支援協定の締結に向け話し合う等有意義な会議となり運営に活かしています。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 会社の理念に基づいた「宣言」を毎朝唱和しており、スタッフ一人ひとりが実践に繋がれるように努めている。 | ホームの開設時に職員間で話し合い作成された理念をリビングや事務所に掲示し、毎日唱和し意識できるようにしています。信頼関係を築き寄り添うケアに努め、その人らしい暮らしに向けミーティングで話し合ったり振り返りを行い、介護計画に反映させながら理念の実践に繋がっています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 月1回地域の清掃を行っている。また町会行事へ参加、近隣の保育園や小学校と交流している。 | 自治会に加入し回覧板や運営推進会議で地域の行事を知り、利用者と一緒に花見に参加したりだんじりがホーム前に立ち寄ってもらっています。小学生が昔遊びを行いに来てくれたり、保育園児のお遊戯の披露と肩たたきの交流は定例化しており、利用者の楽しみ事となっています。職員は月に一度地域の清掃を行い、校区の祭りの手伝いに行き地域の一員としての活動をしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町内会と「災害時相互支援協定」を結んでいる。また、キャラバンメイトとしての活動を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度会議を開催し、活動内容を報告している。また、参加者からの意見を反映できるように、検討し実施に繋がっている。 | 会議は家族代表や町会長、民生委員、介護相談員、大学教授等の参加を得て隔月に開催しています。運営状況や行事、研修、事故などの報告を行い、参加者と意見交換をしています。感染症対策についての質問を受け答えたり、災害時の相互支援協定の締結に向け話し合う等有意義な会議となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議にも参加して頂いている。必要時にはいつでも連絡できる関係を築いている。 | 市の担当者が運営推進会議に出席しており、ホームの状況を理解してもらいアドバイスや相談ができる機会となっています。2～3か月毎に行うグループホーム部会には市職員の出席があり情報交換をしたり、市の依頼を受け認知症サポーター養成講座やフェスティバルの手伝いを職員が行っています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 苑内や法人内で研修を行っており、スタッフ1人ひとりの意識向上に努めている。身体拘束は実施されていない。 | 入職時や年に1回は身体拘束についての研修を行い、またミーティングでも具体的に身体拘束に繋がるような言葉掛けや自由を制限することについて職員に伝えていきます。ユニット入り口や玄関は施錠していますが、利用者に外に行きたい様子が見られたら一緒に出掛ける等、拘束感のない暮らしを支援しています。不適切な対応や言葉掛けがあれば、その都度注意しどのような対応が良いのか話し合ったり一緒に考えています。 | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修などで虐待について学ぶ機会を設け、スタッフの意識向上に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加して学ぶ機会を設けている。また、実際に利用されている利用者もいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所契約時に確認をとり、改定等がある場合事前に家族へ説明し納得して頂いた上で契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族から意見・苦情などがあつた場合、朝礼や会議で共有している。また、運営推進会議の議題としても挙げ話し合う機会を設けている。 | 家族の面会時や電話で利用者の日々の様子を伝え、信頼関係を築けるようコミュニケーションを図り、意見や要望を聞いています。個別の要望が多く職員間で話し合い対応したり介護計画に反映させています。年に2回家族会を開き食材業者の変更の際には一緒に食べてもらいながら話をするなど、機会を作って意見を聞いています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者はフロア会議に参加し会議の際スタッフから出た意見について法人会議にも挙げ法人幹部へ提出するようにしている。 | 毎月行うフロアごとのミーティングや日常的に管理者や主任、リーダーは職員から意見や提案を聞いており、案件によっては法人に挙げることもあります。気軽に意見を言いやすい雰囲気があり、業務改善を行ったり、職員は行事やレクリエーション等の意見を出し合いサービスの向上に努めています。職員の働きやすい環境への配慮や定期的に面談を行い意見を運営に反映できるよう取り組んでいます。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 非常勤のスタッフについては個人の働ける条件に合う勤務ができるようにしている。また、定期的に個別面談を行い、本人の意見などを聞き、整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を受けるスタッフの力量に合わせた外部研修に参加している。内部研修については全員が受講できるようにしている。 | | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームと定期的に集い、勉強会やグループディスカッションを行い、得た情報を今後活かされるよう努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の面接時から関りを多く持ち、利用者の情報を多く集め、信頼関係を早期に構築できるように努める。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族とも面談時に関りを多く持ち、困っていることや問題点を早期に発見できるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 状況に応じて、ほかのサービスが適切であると判断した場合、本人・家族へ説明を行い紹介することもある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食器洗いや、掃除など利用者1人ひとりができることを把握し、その作業を一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 些細なことでも家族に相談し、ともに問題を解決できる関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族だけでなく知人や友人等にも面会をして頂いている。また昔から通っていた美容院などにも通っていただけるように支援している。 | 友人や以前の近所の方が来訪することがあり、居室やリビングなど選んでもらいゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。通っていた美容院への外出支援や年賀状の返事の代筆や手紙のやり取りができるように支援しています。近隣からの入居の方は散歩先や買い物先が馴染みの場所のこともあります。家族の協力を得て墓参りや自宅へ外出する方がスムーズに出かけられるように支援しています。 | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性を把握し、関わり合いがうまくできるよう見守り支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用終了後も相談があれば、いつでも対応できるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 過去にどのような生活をされていたのかを把握し、できるだけ利用者の希望を聴取する。意思表示できない方については「何が望みなのか」をスタッフ間で話し合い把握できるよう努めている。 | 入居時に本人や家族から生活歴や習慣、好みなどを聞いたり、以前の担当ケアマネジャーや利用していたサービス事業所等から情報を得て、思いや意向の把握に努めています。入居後はアセスメントを行う中で好きなことやしたいこと、できる事などを聞き、フロア会議でケアマネジャーや担当職員から情報提供を行いながら他の職員の意見を加え、把握困難な利用者の思いも推し量り話し合っています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでどのような生活をされていたか、本人や家族から情報を聞き、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の変化や状態をスタッフ同士で話し合い、情報を共有し、把握できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現状のケアについてスタッフ同士や家族と話し合い、本人と家族が納得できるプランを作成する。 | アセスメントをもとにフロア会議で話し合い介護計画を作成しています。毎月フロア会議で利用者の現状を話し合い、状況の変化が大きい利用者はその都度変更し、変化の無い場合は3か月毎に計画の見直しを行っています。見直しに当たっては、再アセスメントを行い、家族の意向を聞き医療情報も得てサービス担当者会議で話し合っています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 実行チェックや個人記録をもとに、会議で話し合っている。また、スタッフ同士のコミュニケーションを密にとり、情報を共有している。 | | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 既存のサービスだけではなく、本人や家族の希望があれば可能な限り支援出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の小学校や保育園が来苑し、交流して頂いている。また町会のイベントにも参加して頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医による月4回の往診がある。また、必要に応じて専門医へ受診ができるよう連携をとっている。 | 入居時にかかりつけ医を継続できることも説明し、入居当初は継続し受診していた方もいますが、現在はホームの協力医の往診を全員が受けています。週に1回の往診と別の曜日に訪問看護師による健康チェックを受け、24時間連絡可能で随時来訪してもらうこともあります。また専門医への受診は職員が同行し家族へ報告しています。必要に応じて歯科や眼科の往診を受けることもできます。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回の訪問看護による健康チェックを受け、スタッフは日々の症状や変化等報告し、必要時には受診に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 状態の悪化を早期発見し、主治医へ報告、相談している。また家族への報告や話し合いの場を設けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 会議の際に緊急時の対応について確認し合い研修も同時に行っている。また、重度化した場合には今後の支援について、医師や家族と話し合える場を設けている。 | 基本的には看取り支援は行っていないことを入居時に説明し、重度化が進む中で家族に状況を説明し、ホームでできる支援や出来ない事を踏まえて検討し方針を決めています。重度の方の支援に当たっては、食事が摂れることや常時医療を必要としないことなどの状況の下、本人の苦痛が少なく家族の希望を確認しホームでの暮らしが最適であるかを考えながら支援しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 会議の際に緊急時の対応について確認し研修も同時に行っている。 | | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行っており、スタッフが安全な場所を把握し、円滑かつ安全に行えるように努めている。また地域との災害時支援協定を結んでいる。 | 年に2回の消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下併設する事業所と合同で昼間を想定し、通報や初期消火、避難誘導の訓練を実施しています。1回はホーム独自で夜間を想定した自主訓練を行っています。地域の避難訓練に職員が参加したり、災害時支援協定を結び協力関係を築いています。また備蓄は地域の方の受入れも含めた量を準備しています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者に対しての言葉遣いや声のトーンなどを注意し人格を尊重するよう努めている。 | 接遇マナーや権利擁護、虐待防止、認知症等の研修の中で、職員は利用者の尊厳やプライバシーについて学んでいます。目上の人としての対応を基本とし、個々の利用者に合わせて以前呼ばれていた呼び方にしたり、プライドを損ねないような言葉掛けや同性介助を行う等プライバシーに配慮した支援を心がけています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思表示や思いを言葉にできない方に関して「何を望んでいるのか」を日々の支援の中で見出しスタッフ同士で話し合う。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとり日々自由に過ごして頂いている。1人ひとりペースが違うため、その方のペースに合わせられるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣の際は、利用者に好みの服を選んで着て頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者1人ひとり好みを把握し、嗜好品等の提供を行っている。食器洗い等できる方にはスタッフがそばにつき一緒に行うようにしている。 | 業者から調理された物が届きホームで刻んだりミキサーに掛け、盛り付けを行っています。業者には意見をメモ書きで伝えたり3~4か月毎に給食会議を開き希望を言える機会となっています。おせち作りや鍋料理にしたり、ホットケーキやいちご大福、カステラなどの手作りおやつなど、ホームで手作りして利用者と一緒に楽しんでいます。介助をしたり会話しながら職員も一緒に同じものを食べ和やかな食事の時間となっており、時には少人数や個別に希望にそった外食にも出かけています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分などの嚥下が困難な方には、ゼリー状にする等、飲みやすい状態にして提供している。 | | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、できる方には自己にて口腔ケアを行って頂き必要な方には、スタッフが支援している。また必要に応じて歯科往診を受けている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。また、オムツやパットを活用し、利用者1人ひとりにあった方法で排泄の支援に努めている。 | 排泄チェック表を基に個々のパターンを把握したり、個々の行動や仕草を察知しトイレに行けるように支援しています。排泄支援の方法や排泄用品の選択については、ミーティングや日々話し合いながら自立に向かうように話し合っています。布の下着で生活している方もおり、できる限り維持していけるように支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘になりやすい方には乳製品を提供したり、また腹部のマッサージやホットパックなどで腹部を温めたりと便秘にならないよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 最低週に2回入っていただいているが、本人の希望があれば可能な限り入浴して頂いている。シャンプーやボーディーソープなどは本人の好きなものを使って頂いている。 | 入浴の曜日は決めておらず、少なくとも週2回は入れるように支援し、日中の間に声を掛けながら一人ずつ湯を入れ替え気持ちよく入ってもらっています。希望に応じて回数を増やしたり、ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯を楽しんでいます。強く拒否する方はおらず、時間を変えたり声のかけ方を工夫しながら無理のない入浴に繋げています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調が優れない方や、傾眠されている方がいれば、居室にて静養をして頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 往診記録に日々の状態や処方薬を記入し、その都度処方箋を確認するようにしている。また服薬の支援については、チェック表を活用し、もれがないように注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 天気の良い日等少人数で屋上庭園にいたり、外に椅子を置き日に当たる等、気分転換して頂いている。 | | |

グループホームくすのき苑(杉)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人や家族の希望があれば日時を決めて外出して頂いている。地域の行事にもできる限り参加して頂いている。 | 坂が多く車の多い周辺環境から重度の方の日々の散歩は難しい状況ですが、庭や東屋のあるテラスに出て外気に触れる機会を作っています。初詣や花見などの外出行事の他、希望を聞き外食や買い物等に出かけ、他の複数の事業所と合同で行う「にじの会」では、茶話会やカラオケ、花見などの様々な行事があり利用者同士の交流の機会にもなり楽しんでもらっています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理能力に合わせて所持していただいている。また本人が「欲しい」と言われた物は可能な限り購入することができ、また、スタッフと一緒に買いに行くこともできる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、本人や家族の意向を確認し、対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた飾りつけを行っている。フロア内は安全に移動できるよう、環境を整えている。 | 陽当たりの良い共有空間はカーテンで採光の調整を行い、過ごす場所を選べるよう複数のソファや椅子を置いています。利用者で作った壁飾りや生花を活け季節を感じられるようにし、行事ごとの写真を掲示することで会話のきっかけになっています。加湿器を置き温湿度調整にも気を配り、心地よい空間作りに努めています。また、重度の方がリビングで過ごせるようベッドを置いたり、車いすでも動きやすいよう配置を工夫しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアには椅子だけではなくソファもあるため、食事以外には好きな場所で過ごして頂けるよう努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が過去使用しておられた物を持ち込んで頂いたり、家族の写真を飾ったりして頂いている。 | 入居時に使い慣れた物を持って来てもらえるように説明し、タンスやテレビ、仏壇などを持って来たり、写真を飾っています。小さなテーブルや椅子を置き新聞を読むことを日課にしている方やラジオやCDデッキで音楽を楽しんでいる方など、その人らしく過ごせる居室となっています。毎日掃除器とモップ掛けを行い、清潔保持に努めています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者一人ひとりの「できること」をスタッフで話し合い、共有している。洗濯物をたたんだり、清掃や食器洗い等して頂いている。 | | |